

■□=====

□

株式会社 京浜予防医学研究所

■□ KMLメールニュース □■ ◆◆ VOL. 40 ◆◆

=====□■

株式会社 京浜予防医学研究所 よりお知らせ致します！

2011年 11月 19日発行

□■ ----- http://www.kml-net.co.jp/

KMLメールニュースVOL. 40をお送り致します。
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の
一助として頂ければ幸いです。

☆☆ トピックス ☆☆

- 【1】最新スクリーニングセット
「CAP16鼻炎・喘息」 & 「CAP16アトピー」
- 【2】感染症トピックス：抗酸菌（結核・非結核性抗酸菌症）情報
- 【3】検査項目情報：骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）
- 【4】検査項目情報：TRACP-5b
- 【5】KMLインフォメーション 9月～11月分のお知らせ

「1」 最新スクリーニングセット
「CAP16鼻炎・喘息」 & 「CAP16アトピー」

10月1日から受託を開始しました特異的IgE検査の最新セットをご紹介します。
この2つのセットはどちらもガイドラインなどのデータに基づいて項目を選択しました。アレルギー疾患は複数の抗原に感作されている可能性がある中、検査項目が約200種類と多く、選択に苦慮されるケースがあると思います。

患者様の感作状態を見るときには、是非新CAP16をご活用ください。

「CAP16 鼻炎・喘息」

- 季節性抗原
スギ（2-4月）・ヒノキ（3-5月）・ハンノキ（1-5月）
カモガヤ（5-8月）・ブタクサ（8-10月）ヨモギ（8-10月）
ガ（初夏・秋）・ユスリカ（初夏・秋）
- 通年性抗原
ハウスダスト1・ヤケヒョウヒダニ・ネコ皮膚・イヌ皮膚
カンジダ・アスペルギルス・アルテルナリア・ゴキブリ
- アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、気管支喘息（学童以上）に適用できます。
- 季節性抗原は春の樹木花粉から秋の雑草花粉、および昆虫が検査でき、年間を通じて患者様の感作状態を診る事ができます。
- アレルギー性鼻炎と成人気管支喘息の感作アレルゲンの全国調査項目の殆どすべてをカバーしています。※1 ※2

「CAP16 アトピー」

- 吸入系抗原
ハウスダスト1・ヤケヒョウヒダニ・スギ
動物上皮マルチ（イヌ皮膚、ネコ皮膚、マウス、ラット、
モルモット上皮の5種混合）
カビマルチ（アスペルギルス、アルテルナリア、カンジダ、
ペニシリウム、クラドスポリウム、ヘルミントス
ポリウムの6種混合）
- 食餌系抗原
卵白（★）・ミルク（★）・小麦（★）・ピーナッツ（★）
ソバ（★）・大豆（●）・カニ（★）・エビ（★）・イクラ（●）
マグロ・キウイ（●）

★：食品表示義務項目 ●：食品表示奨励項目

○食品表示義務7品目すべてをカバーしています。

○食物依存アレルギーにおいて小児から成人まで適用できます。
(食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、乳幼児における気管支喘息など)

○食物アレルギーまたはショック症状を呈した原因食物の頻度順で上位から90%をカバーしています。※3

【参考文献】

- ※1 足立満ほか:アレルギー・免疫 13(4). 548-554, 2006
- ※2 奥田稔ほか:日本耳鼻咽喉科学会会報 105, 1181-1188, 2002
- ※3 厚生労働科学研究平成20年モニタリング調査

検査項目 : CAP16 鼻炎・喘息
CAP16 アトピー
検体量 : 血清1.2mL
保存方法 : 冷蔵
保険点数 : 1430点
検査判断料 : 144点(免疫学的検査)
所要日数 : 3~5日
基準値 : 0.34UA/mL以下

2 感染症トピックス: 抗酸菌(結核・非結核性抗酸菌症)情報

1. 結核の常識・非常識

近年の結核治療の進歩により、以前は常識とされていたことが非常識になることも有るようです。過去に結核の治療歴があり、再度結核が発症した場合、すべての患者様で内因性の再燃といえるのでしょうか。実は・・・。

結核菌情報の詳細は下記URLをご確認ください。

<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/kekakaku2011.pdf>

2. 非結核性抗酸菌症

結核は現在も意外に多く問題視されていますが、近年、学会では非結核性抗酸菌症(特にMAC症)がホットな話題となっています。結核と異なり登録制では無いため全数把握が困難ですが結核の罹患数を超えているとの噂もある疾患です。

抗酸菌の塗抹検査が陽性でPCR-TBが(-)の場合、M. avium、M. intracellulareを起因菌としたMAC症であるケースが大半と言われています。

MAC症の検査(PCR-AVI・INT)は、PCR-TBと同じ検体で追加オーダーが可能です。

上述のような検査データの場合は、是非ご検討下さい。

非結核性抗酸菌情報の詳細は下記URLをご確認ください。

<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/ntm.pdf>

コード	検査項目	実施料	判断料	所要日数
5029	蛍光法(塗抹)	42点	微生物	2日
5030	チールネルゼン(塗抹)	40点	微生物	2日
5031	培養(小川培養法)	180点	微生物	4~8週
5541	PCR-TB	410点	微生物	4~6日
5542	PCR-AVI・INT	430点	微生物	4~6日

3 検査項目情報: 骨型アルカリフォスファターゼ(BAP)

BAPは骨形成を担う骨芽細胞の細胞膜に、フォスファチジルイノシトールアンカー(GPI-アンカー)を介して結合しています。血中に放出されるのは、これが特異的フォスフォリパーゼC(PLC)により分解され可溶性型となったものです。

BAPは骨芽細胞により合成されるため、骨芽細胞が活動的なとき、特に石灰化初期において活性が高く、すなわち、骨形成の際に石灰化が進行する場所においてBAPの濃度は増加しています。このためBAPの上昇は骨形成の亢進を反映し、骨の代謝回転が早い場合に高値を示します。また、年齢によって血中BAPの値は異なり、小児では骨の代謝回転が特に活発なため他の年齢層より高値を示します。成人では安定した値をとりますが、閉経期以後の女性ではホルモンの影響により再び上昇します。

BAPは血中半減期が約3.5日と比較的長く、また血中濃度で測定されるため、I型コラーゲン架橋Nテロペプチド (NTx) やデオキシピリジノリン (Dpyr) のように尿を用いる他の骨代謝マーカーのような日内変動がみられず、腎機能の影響も受けにくいのが特徴です。

検査項目	:	BAP
検体量	:	血清0.8mL
保険点数	:	170点
検査判断料	:	144点 (生化学的検査II)
所要日数	:	3~5日
基準値	:	M: 3.7~20.9 μ g/L
		F: 閉経前 2.9~14.5 μ g/L
		閉経後 3.8~22.6 μ g/L

4 検査項目情報 : TRACP-5b

TRACP-5bは、酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ (tartrate-resistant acid phosphatase:TRACP) の骨型アイソザイムであり、破骨細胞に局在する酸性加水分解酵素です。破骨細胞が骨に吸収する際に血中に漏出することから、破骨細胞数やその骨吸収活性の直接の指標となる唯一の骨吸収マーカーです。

同じ骨吸収マーカーで、尿を主な検査材料とするI型コラーゲン代謝産物などと異なり、血液で測定できるので尿で必要となるクレアチニン補正が不要となり、生理的変動の測定変動が小さく、骨代謝の小さな変化をとらえやすいので、臨床的には骨粗しょう症治療でSERM (選択的エストロゲン受容体モジュレーター) などのマーカーの変動が比較的小さい薬剤の効果判定に有用です。また、腎機能の影響を受けないなどの種々の優れた特性を有しています。透析患者の骨減少の診断補助に使用可能な骨吸収マーカーとして大いに期待されています。

検査項目	:	TRACP-5b定量
検体量	:	血清0.3mL
保険点数	:	160点
検査判断料	:	144点 (生化学的検査II)
所要日数	:	4~6日
基準値	:	M: 170~590 mU/dL
		F: (YAM) 120~420 mU/dL
		※YAM:若年者成人平均値

5 KMLインフォメーション 9月~11月分のお知らせ


前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用して頂ければ幸いです。

2011年 9月 26日 新規受託項目のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2011-0926.pdf>

2011年11月 11日 ノロウイルス迅速検査のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2011-1114.pdf>

■ □ = = = = =

 最後までお読み頂きまして有り難う御座いました。

編集/発行 <http://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒211-0042 神奈川県川崎市中原区下新城1-13-15

= = = = = □ ■